Europe Indicators

発表日：2022 年 8 月 18 日（木）

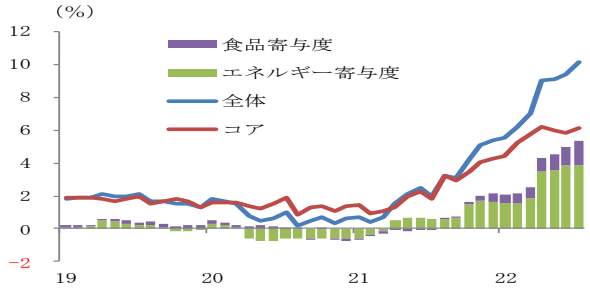
欧州経済指標コメント：７月英国消費者物価

～とうとう 40 年振りの2桁台に突入～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主席エコノミスト 田中 理（TEL：03-5221-4527）

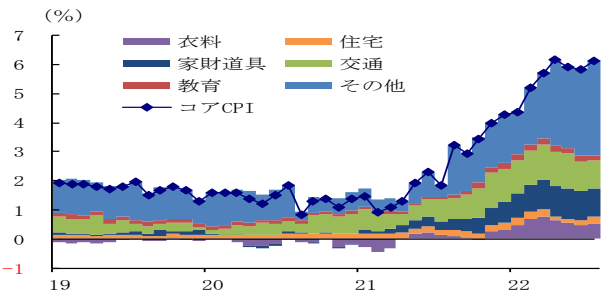
- 17日に発表された７月の英国の消費者物価は前年比＋10.1％と前月（同＋9.4％）から上昇率が一段と加速し、1982年以来となる40年振りの水準を記録した。食料品（前月：同＋9.8％→同＋12.6％）、アルコール（同＋1.2％→同＋2.8％）、食料・アルコール・たばこ・エネルギーを除くコア物価（同＋5.8％→同＋6.1％）。エネルギー（同＋57.3％→同＋57.9％）の上昇率が加速した一方、たばこ（同＋8.3％→同＋8.1％）の上昇率がやや鈍化した。
- 今月のコア物価の上昇加速を牽引したのは、衣料・履物（同＋6.2％→同＋6.7％）、家賃（同＋3.2％→同＋3.8％）、航空運賃（同＋22.4％→同＋37.1％）、通信（同＋2.9％→同＋3.2％）、耐久娯楽財（同＋2.0％→同＋3.3％）、パッケージ旅行（同＋3.8％→同＋5.7％）など。全般に価格転嫁の動きが広がるなか、航空運賃やパッケージ旅行の上昇加速は、燃料費の高騰や経済活動再開による人手不足が影響した模様。10月には光熱費の大幅値上げが予定されており、年内は２桁台のインフレ率が続く公算。
- 今回の計数は８月４日に公表された金融政策レポートでのＢＯＥの想定（同＋9.9％）を上回った。４～６月期のマイナス成長転落や就業者の増加ペース鈍化など、景気後退の兆しも広がっているものの、物価や賃金の上振れ、資源価格の更なる高騰が続いており、インフレ警戒姿勢を解く状況にはない。９月のＭＰＣでは前回に続き50bpの利上げを行うと予想する。

■英国：消費者物価の推移（前年比）



注：コア物価は食料・たばこ・アルコール・エネルギー除く
出所：英統計局資料より第一生命経済研究所が作成

■英国：コア消費者物価の要因分解（前年比）



注：コア物価は食料・たばこ・アルコール・エネルギー除く
出所：英統計局

■英国の消費者物価（%）

		2021 3Q	4Q	2022 1Q	2Q	2021 9月	10月	11月	12月	2022 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
消費者物価	（前期比）	1.1	2.2	1.4	4.3	0.3	1.1	0.7	0.5	-0.1	0.8	1.1	2.5	0.7	0.8	0.6
	（前年比）	2.8	4.9	6.2	9.2	3.1	4.2	5.1	5.4	5.5	6.2	7.0	9.0	9.1	9.4	10.1
コア消費者物価	（前年比）	2.6	3.9	5.1	6.0	2.9	3.5	4.0	4.3	4.4	5.2	5.7	6.2	5.9	5.8	6.1
食料品	（前年比）	0.2	2.6	5.1	8.3	0.8	1.2	2.5	4.2	4.3	5.1	5.9	6.7	8.6	9.8	12.6
アルコール	（前年比）	1.5	2.3	1.8	1.3	2.9	1.2	2.7	3.0	1.4	1.5	2.5	1.2	1.7	1.2	2.8
たばこ	（前年比）	2.7	4.7	6.0	8.2	2.3	2.4	6.8	4.8	5.1	5.7	7.1	7.8	8.5	8.3	8.1
エネルギー	（前年比）	9.4	24.1	24.6	54.1	9.5	22.3	25.5	24.5	23.3	22.8	27.6	52.2	52.7	57.3	57.9
住宅用燃料	（前年比）	2.7	23.0	23.6	69.9	2.8	22.9	23.2	22.7	22.9	23.1	24.8	69.6	69.9	70.2	70.3
自動車燃料	（前年比）	17.8	25.6	25.6	35.6	17.8	21.5	28.5	26.8	23.6	22.3	30.7	31.4	32.8	42.3	43.7

注：消費者物価の前期比は季節調整前。コア消費者物価は食料・アルコール・たばこ・エネルギーを除く。出所：英統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。